

# 平成26年度 公益財団法人滋賀県陶芸の森事業計画

## ◇基本方針ならびに重点事項

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして主要な地域産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指し、自然の中での創造と遊び、文化と産業が一体となった多様な機能をもつ公園として、またこれまで蓄積してきた情報収集力や技術力、国内外の人的ネットワーク、研究成果、収蔵作品等の活用、施設管理などのノウハウを基盤にし、陶芸館・信楽産業展示館・創作研修館の三つの施設運営を通じて県民の陶芸に対する親しみと理解を深める場として、地域性と国際性および現代性を備えた魅力ある事業の積極的な展開を図り、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に寄与する。

平成26年度は県および甲賀市からの指定管理第2期の4年目にあたる。当財団を取り巻く環境の変化を踏まえ、第II期中期経営計画に基づき、目標達成に向け着実に事業を推進するとともに、公益財団法人としてのメリットを活かし、昨年度立ち上げた「陶芸の森やきもの振興基金」による、財源確保に努める。また滋賀県立陶芸の森開設25周年となる平成27年度にむけて、滋賀県の伝統文化である信楽焼の魅力を紹介するとともに、陶芸の森の取り組みを発信する記念事業の企画準備を進める。

## 第1 県民に親しまれる施設運営に関する事業

### 1. 公園機能の充実

太陽の広場や星の広場など人々が自由に憩い楽しめるよう公園機能の充実を図り、また施設を安全かつ清潔に保ち、植栽の維持管理に努め、入園者に快適な空間の提供とサービスの向上に努める。

#### (1) 陶芸作品の野外設置

陶芸の森という施設の名にふさわしく、陶芸家の創作作品の野外設置を進め、いわば野外美術館として、自然の中で広く県民が芸術作品を鑑賞できる機会を提供する。

#### (2) 窯の広場の充実

現在、穴窯をはじめとする薪窯が7基点在している。多くの種類の窯を持つことでつくり手である陶芸家のモチベーションをあげ、また、「しがらき学ノススメ！」等の講座のバリエーションを増やすことができる。また、来園者には活きた薪窯を見てもらえることで、陶芸の森らしい園内散策のポイントとする。

#### (3) 火鉢ロードの充実

来園者に、昭和の時代に信楽焼の主力製品であった各種の火鉢を植木鉢として使い歩道上に設置した。継続して来園者に楽しんでもらうために植栽の管理を行い、紹介看板等を必要に応じて更新していく。

#### (4) 花咲く太陽の広場

太陽の広場から陶芸館にかけての斜面の桜の手入れ等をおこない、また草花を植栽し景観を向上させる。

#### (5) エクステリアゾーン

信楽産業展示館周辺にガーデンセットなどのエクステリア商品を設置し信楽焼の強みとされる大型陶器を展示し来園者に実際に使用してもらう。

#### (6) ボランティア活動推進事業

来園者に対するサービス向上と陶芸文化の普及活動のため、展覧会展示解説、連携授業補助、園内の案内およびPR活動、陶芸館展示監視補助、園内園芸作業などボランティアによる活動支援を受け、利用者へのきめ細かなサービスを提供する。また活動の推進やボランティア同士の連携を目的としたミーティングを開催し、ボランティア活動の向上のための研修を実施する。

## 2. 地域の観光拠点としての集客促進事業

信楽焼を抱える滋賀県南部地域の観光拠点としての陶芸の森は、いかに地域資源を活かしながらリピーターをつくっていくかが課題のひとつである。

集客促進のひとつとして、やきものファンに信楽をより知ってもらうために、各種講座や陶器市、様々なレクリエーションイベントを開催し、来園者にとって魅力的な陶芸の森を創っていく。また、びわこデジタルズビューローや観光協会等と連携し、陶芸の森を含めた信楽の地域資源を活かした観光ルート等の作成を検討する。

#### (1) しがらき体験 しがらき学ノススメ！

陶芸の森の施設を活用して信楽焼について広く学んでもらえるように陶芸制作講座を開催する。技法別の講座や穴窯による作品の制作など幅広いテーマを取り上げる。団体向けには、目的にあった講座を別途受け付けることで増収を図る。

##### ア 実技講座シリーズ

やきものについて、広く学ぶことができる実技講座を開催する。内容については、初心者向けの講座から、一步踏み込んだ高度な技術を伴う講座まで開催する。

##### (ア) 手びねりでうつわをつくろう！（「食のうつわをつくる」等のテーマを設け2回開催）

陶芸初心者を対象にした入門講座として開催。食器づくりや花器づくり等をテーマに取り上げ、やきものを制作する基本技法である手びねりの習得をめざす。

##### (イ) 技法別講座 ミニ窯をつくろう！

手びねりでぐい呑み数個が焼けるミニ窯をつくる。後日窯で素焼して、炭を燃料にした焼成をおこない、窯の仕組みの理解と焼成を体験してもらう。

##### (ロ) 技法別講座 ラク焼講座

粘土3kgで茶碗を制作し、後日ラク焼で焼成する。茶碗の制作とともにラク焼の焼成技術の習得をめざす。

##### (ハ) 技法別講座 イッテコイ窯焼成講座

イッテコイ窯で作品を焼成する講座を開催する。粘土3kgで茶碗、食器など自由に作陶し、必要に応じて施釉する。イッテコイ窯で焼成することで、薪の単窯での焼成の妙味を体験してもらう。

##### (ニ) 技法別講座 上絵付けに挑戦！

お皿に上絵付けの技法で絵付けをする。

##### (ホ) 技法別講座 練り込み技法でうつわをつくろう！

練り込みの技法で皿や鉢などのうつわをつくる。

##### イ 穴窯体験講座の開催

信楽焼の伝統技術、歴史を広く一般の方に知ってもらうため、信楽町内在住の陶芸家による指導のもと実際に作品をつくり、穴窯で焼成をする体験を通じて知識と技術の普及と公開を図る。

初級、中級、上級講座と、各クラスに分けて募集する。初級については、初心者の方を中心にわかりやすい作り方の指導をおこない、信楽焼に対する関心、理解を深める。中級は、一歩踏み込んでより高度な技術の習得をめざし花瓶などを制作する。また、上級講座では、大壺などを制作し、高度な技術の習得をめざす。

#### ウ 穴窯焼成クラスの開催

焼成クラスについては、穴窯体験講座のリピーター等の経験者を対象に、一定量の粘土を渡し各々が作品づくりをおこなうだけでなく、自ら穴窯での焼成することにより、薪による焼成技術の習得もめざす。穴窯講座のリピーターの受け皿として機能させていく。

#### エ スイッチバックキルン焼成クラスの開催

昨年度に築窯したスイッチバックキルンを、今年度は、信楽焼らしい焼き締めを焼成できるための試験焼成と位置付け、一定量の粘土を参加者に渡し各々が作品づくりをおこなうだけでなく操炉技術の習得を目指す。

#### オ 登り窯講座

信楽焼の伝統に基づき表現の幅を広げるため、従来から穴窯を積極的に活用してきたが、信楽町内在住の陶芸家による指導のもと実際に作品をつくり、登り窯（火袋、一の間）で焼成する体験を通じて登り窯の知識と技術の普及および公開を図る。

講座は、初級、上級講座に分けて募集する。初級については初心者の方を中心にわかりやすい作り方の指導をし、信楽焼、登り窯焼成に対する関心、理解を深めてもらう。上級は、一歩踏み込んでより高度な技術や大物の制作技術の習得をめざす。

#### カ 登り窯 釉薬講座（三大名産地の土を使って器三種をつくる）【新規】

登り窯で三種類の異なる土を使用し、釉薬作品などを焼成する講座を開催。茶碗・食器などを自由に作陶し、必要に応じて施釉し、登り窯の二の間で焼成することで登り窯焼成に対する関心、理解を深めてもらう。

#### キ 登り窯 グループ参加の部【新規】

参加者をグループで募り、広く業界や県内の陶芸関係者、陶芸教室等に呼びかけて作品を集め登り窯にて焼成し、薪窯による釉薬作品焼成の技術の保存と普及を行う。焼成は参加者に担当してもらう。

### (2) イベントの開催・誘致

陶芸の森を舞台に軽スポーツ、芸能、レクリエーションなど各種イベントの自主開催や公園利用者にとって魅力的で集客効果が見込めるイベント等を誘致する。特に春の連休には、地域グループの主催による陶器市を開催する。

#### ア 第8回 信楽作家市 in 陶芸の森の開催

<開催日>平成26年5月2日（金）～5日（月）

<主催>信楽作家市 in 陶芸の森実行委員会

<後援>公益財団法人滋賀県陶芸の森

信楽町内の陶芸家を中心に組織している信楽作家市 in 陶芸の森実行委員会と共催で、5月の連休に「手づくりのやきもの」を販売するイベントとして開催する。

#### イ 「第19回信楽セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森」の開催

＜開催日＞平成26年10月11日（土）～13日（月・祝）

「作品に触れ作家に触れる」をテーマに滋賀県内の陶芸家を中心とする工芸家が、自らつくった質の高い作品を販売する「作り手と使い手の出会いの場」として開催する。

#### ウ 2014 わくわくウォーキング in 陶芸の森

陶芸の森の園内および周辺散策路を有効活用し、ウォーキングを通して園内の豊かな自然を満喫できる機会を提供する。また、野外に設置された数々の陶芸作品の鑑賞やニュースポーツ体験の実施など、幅広い年齢層が楽しめる企画として実施する。

#### エ 陶芸の森フォトコンテスト

四季折々の変化に富み、豊かな自然に恵まれた陶芸の森を素材として、フォトコンテストを行い、それをきっかけとして陶芸の森の魅力発信と公園機能の活用を図る。

#### (3) 作品の貸出事業

県民に気軽に陶芸に親しんでもらえるよう、創作研修館で制作されたスタジオ・アーティストの研修作品やゲスト・アーティストの作品を、ホテル、公共施設等に貸出しを行い、陶芸文化の普及向上に努める。

#### (4) ホームページ・広告掲載【収益事業】

月平均約23,000プレビューを獲得している陶芸の森ホームページにWEB広告を掲載し、収入の増を図る。

#### (5) 観光および集客促進のための広報活動

滋賀県南部地域の観光拠点としての陶芸の森を広くアピールし、多くの観光客を集客するために各種メディアへ積極的にパブリシティをおこなうとともに、旅行社等に対しても訪問するなど団体客の誘致にむけた積極的なPRに努める。

#### (6) 図書室の運営

陶芸に関する専門機関の図書室として、専門書など蔵書の一部を閲覧、貸し出すことで、業界や一般に広く陶芸文化の普及を図る。

#### (7) レストランへの施設貸与【収益事業】

甲賀市の許可を得た業者に信楽産業展示館内の一室をレストランとして貸与し、来園者へのサービス向上と陶芸の森への集客を図る。

#### (8) 信楽ホールの活用【収益事業】

県民の陶芸に対する理解と親しみを深めてもらい文化の向上を図るとともに陶芸に関する交流の場とするため、信楽ホールの活用を図る。

### 3. 施設の管理

地域の産業、文化および観光の拠点施設として機能し、来園者にとってもやすらぎ感のある施設として良好な状態を維持し、一層利用が図られるよう、日々巡回しながら適切な維持管理に努め、また各施設のバリアフリーにも配慮し、子どもや高齢者、障害者の方にも利用しやすい施設管理に努める。

### 4. 陶芸の森やきもの振興基金の周知活動

平成25年に創設した「陶芸の森やきもの振興基金」への寄付金をお願いするため、陶芸の森での様々な事業活動をおこなう中で、ご支援をいただけるよう周知活動をおこなう。

## 第2 陶芸文化の発信事業

### 1. 展覧会開催事業

これまでも時代の動きをいち早くとらえながら、産地への刺激を意識し、地域産業の振興にリンクするテーマによる展覧会や、滋賀の魅力である近江のやきもの文化や歴史、滋賀県在住の作家たちなど地域に根ざした展覧会を展開してきた。陶芸館では、幅広く国内外の多彩なやきもの文化の魅力を新しい視点を交えながら、分かりやすく紹介する展覧会を企画発信していく。

平成26年度は、陶芸館では、これらの展覧会を通して、これまで紹介することのなかった新しい視点から陶芸を紹介し、やきもの文化の幅広い魅力をさらにアピールする。

また当館で企画した「THE YUNOMI 湯呑茶碗-ちょっと昔のやきもの日本縦断旅」展を国内に巡回する。来園者の少ない冬季（12月中旬～3月上旬）には陶芸館を休館し、収蔵品の状態チェック、陶芸に関する調査、普及活動、展示設備点検にも力を入れる。

#### (1) 特別企画展「信楽焼の美」／「現代イギリスの陶芸～バーナード・リーチから若手作家まで」

＜開催期間＞平成26年4月1日（火）～6月22日（日） 72日間

（平成25年度からの継続）

2つの展覧会では、一方で多くの来館者らから要望もある信楽焼の美の魅力を紹介し、またこれまでの滞在作家作品を加えながら、イギリスの陶芸の現代作家たちの作品を展示する。

「信楽焼の美」展では、当館の収蔵品の中から古信楽の大壺や近年収蔵品に加わった信楽の代表的な薪窯作家の作品を紹介する。引き続いて「現代イギリスの陶芸～バーナード・リーチから若手作家まで」と題して、イギリス陶芸の巨匠バーナード・リーチからルーシー・リー、アリソン・ブリソンといった代表的な作家の他、陶芸の森で滞在制作した若手作家までを展覧し、イギリス陶芸を紹介する。

#### (2) 特別企画展「集まれ！奇想天外な“やきもの”たち」

＜開催期間＞平成26年6月29日（日）～9月28日（日） 82日間

時代や地域を超えて愛されてきた「やきもの」。その魅力は、かたち・色彩・模様・肌触りなど、豊かな表現力にあるといえよう。こうした特性は今日みられるような多様な「やきもの」文化を育み、人々にさまざまな〈たのしみ〉の美をもたらしてきた。本展では、私たちの好奇心を刺激する古今東西のユニークな「やきもの」を紹介する。

#### (3) 陶磁ネットワーク会議共同企画展

##### 特別展「やきものって何ダ？－陶芸美術館8館の名品に学ぶ－」

＜開催期間＞平成26年10月5日（日）～12月14日（日） 61日間

茶碗や湯呑みなど、日本ほど普段の生活にやきものが溶け込んでいる国は、古今東西ほかにはないといえるだろう。国内各地で、その土地ごとに特徴のあるやきものが作られてきたため、そのバリエーションは極めて幅広いといえる。

各やきもの産地に所在し、やきものを専門に収蔵展示する美術館・博物館8館が総合的に連携するべく、平成20年に「陶磁ネットワーク会議」が設置された。それから5年を経た今、やきもの魅力を伝える共同企画展を開催する。本展では、各館一押しの名品を紹介するとともに、やきものがどのように作られ、どのように使われたのか、また何を表

現しようとしてきたのかなどのテーマについて、8館の収蔵品を通じて紹介する。各地のやきもの美術館を旅した気分に入りつつご覧いただきたい。

#### (4) 特別展「北欧スウェーデンの動物のやきもの リサ・ラーソン」

＜開催期間＞平成27年3月7日（土）～3月31日（日） 20日間

（平成27年度への継続）

＜共 催＞NHKサービスセンター

＜後 援＞スウェーデン大使館（予定）

＜企画協力＞アートインプレッション

北欧のデザインで魅力的な動物作品で幅広い人気を得ている、リサ・ラーソン。彼女のデザインの源であり、戦後日本でも注目されたスウェーデンの陶芸の背景を振り返りながら、1950年代から現代までの作品や人気の「小さな動物園」、「アフリカ」などリサによる動物デザインシリーズやユニセフの「世界の子どもたち」シリーズなど。リサの陶芸デザインを集大成した日本で初めての本格的な回顧展を開催する。

#### (5) 巡回展企画事業

##### 「THE YUNOMI 湯呑茶碗展」の他館への巡回

＜巡回先＞江別市セラミックアートセンター

＜開催期間＞平成26年6月21日（土）～8月10日（日）

滋賀県立陶芸の森陶芸館所蔵の湯呑コレクションは、北海道から沖縄まで、日本の湯呑茶碗に焦点を絞った約350点から成る。明治時代末頃から昭和20年頃にかけて、某個人により収集された。このコレクションの見どころは、日本各地の代表的な名工・作家による湯呑茶碗が多く含まれること、日本陶磁のあらゆる技法・技術が見られること、各ご当地の名所名跡などをデザインした地方ならではの湯呑み茶碗が楽しめることである。

本年度は、陶芸の森陶芸館の主要コレクションである「坂口湯呑コレクション」の中から会場規模に合わせて100～280点を選び、江別市セラミックアートセンター（北海道）に巡回する。

#### (6) 陶磁ネットワーク会議への参加

＜開催日＞平成26年月6月（予定）

＜参加館＞滋賀県立陶芸の森陶芸館、愛知県陶磁美術館、茨城県陶芸美術館、  
岐阜県現代陶芸美術館、佐賀県立九州陶磁文化館、福井県陶芸館、  
兵庫陶芸美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館

平成20年度に結成された県立8館の陶芸専門美術館・博物館による「陶磁ネットワーク会議」は、加盟館同士の交流や情報交換をすすめ、共同企画展の開催、共同研究、各館所蔵品の相互利用、緊急時の協力体制の強化などを目的とする。

本年度は、福井県陶芸館で開催予定の本会議への出席、平成26年度開催予定の共同企画展「やきもの美術館の旅（仮称）」の開催準備を予定している。

#### (7) 収蔵品収集（管理）事業

陶芸館では、収蔵品収集に際して、国内外の陶芸に造詣が深い学識経験者や美術館館長らで組織される陶芸館収蔵品収集審査会を2年に1回開催し、収蔵候補作品について審議している。なお、価格評価については、外部の有識者で構成される収蔵品価格評価委員により審議を行っている。

危機管理への対策も計画的に実施し、盗難及び地震対策、カビや共箱の虫食い防止など、

収蔵作品の安全確保と保全に種々の対策を講じている。また、今後も継続して収蔵品（収蔵庫）の点検整理作業を実施し、作品の点検と保存環境の整備に努めるとともに、展示什器や機器の整備も行う。

#### (8) 陶芸館ギャラリー企画展

陶芸館ギャラリーは、気軽に利用できる館内唯一の無料展示スペースである。これまで陶芸の森の役割や事業を、入館者に理解して戴く情報発信の場として活用してきた。今年度も県内若手中堅アーティストの展覧会や普及啓発事業の成果展を開催し、陶芸の森の独自性を内外に示していく。

##### ア 「シリーズ湖国の陶芸家－現代へのつくり手達の眼差し」

＜開催期間＞平成26年8月28日（木）～9月28日（日） 28日間

滋賀の中堅・若手陶芸家の新作を紹介。彼らのやきもの観や胎動する湖国のやきもの像を探りながら、県内陶芸家の最新情報の収集と発信を試みる。秋に1回1名を紹介予定。

##### イ 「子どもたちの土の造形－本物との出会いから展Ⅰ、Ⅱ」

＜開催期間＞平成26年6月29日（日）～8月24日（日） 57日間

小学校との連携授業や宝物づくり事業など、陶芸の森が他に先駆けて取り組んできた独自の普及啓発事業の成果を、子どもたちが制作した作品を通して内外に発信する。

##### ウ 「信楽焼－継承される伝統の技」ビデオ上映（平成25年度からの継続）

＜開催期間＞平成26年4月1日（火）～6月22日（日） 72日間

昨年度制作した重ね掛けや松皮、細工物をテーマに信楽焼の伝統技術を紹介するビデオを上映。信楽焼への理解を深めるとともに普及啓発に努める。

#### (9) 特別鑑賞塾

＜開催期間＞第15回：平成26年7月4日（金）、7月6日（日）

第16回：平成26年11月2日（日）

陶芸館では、収蔵品などを手に取って、学芸員による解説を聞きながら鑑賞し、作品をより身近に感じてもらい、また技法や作者に近づける取り組みとして、特別鑑賞塾を有料で開催する。

#### (10) 博物館実習

＜実施期間＞平成26年8月26日（火）～8月29日（金） 4日間

陶芸館では、平成7年度から実習生の受け入れを行っている。これまで、関西圏を中心に21大学・119名を実習生として受け入れてきた。展覧会と普及啓発についての講義、また作品の取り扱いと梱包や調書の作成など、実物資料を扱う実技演習をおこなう。

#### (11) マイヤーガーデン滋賀プロジェクト事業への協力

##### 滋賀特別展「Splendors of Shiga（滋賀の輝き～伝統と革新の文化）」

＜展覧会開催期間＞平成27年1月28日（水）～8月16日（日）

滋賀県とミシガン州との姉妹友好交流を土台とし、米国における滋賀の魅力を発信、県内産業の海外展開・観光交流の推進などを目的として、ミシガン州のフレデリック・マイヤーガーデンズ&スカルプチャー・パークで行われる一連のプロジェクト事業のうち、滋賀特別展および日本庭園内の茶室コーディネート等に協力する。なお当プロジェクトについては、県観光交流局を主管とし、モノづくり振興課、文化財保護課、文化振興課および陶芸の森、近代美術館、琵琶湖文化館から構成される実行委員会が組織された。

## 2. 創作事業

やきものの産地である信楽でレジデンス事業をおこなっているメリットを最大限に、そして双方向に活かすことが求められており、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させる。

その観点から「創作研修館オープン・スタジオ」を強化し、交流の機会を増やすことで、信楽焼の振興に務める。

### (1) アーティスト・イン・レジデンス事業

陶芸の森のアーティスト・イン・レジデンス事業では、これまでに48ヶ国のべ1,000人を超える芸術家を受け入れてきた。その多くは、陶芸家であるが、近年、国内外を問わず現代美術を志向する陶芸家以外の若手作家が増えてきている。このことは、これまでに創作研修課が行ってきた、陶芸固有の高いハードルを陶芸の知識がない作家であっても乗り越えられるよう、技術的あるいは素材に対するサポート体制が周知されてきたことが大きな要因であると考ええる。

#### ア スタジオ・アーティストの受入れ

例年と同様に30名程度を受け入れるが、現代美術を志向する者の割合が一定率あると考えられることから、スタジオ・アーティストと地域の陶芸家との交流を増やすことで「産地性」を打ち出す。

#### イ ゲスト・アーティストの招聘

今年度は、6名のゲスト・アーティスト(うち2名は公募枠)を招聘する。

##### ○ジェニファー・リー (イギリス) 平成26年4月

イギリスの第3世代にあたる。器を空間の中でとらえ、練り込みなどの手法で、器の表面に静かな特の景色を生み出す。イギリスのなかでも、ルーシー・リー、ハンス・コパーらの器の空間表現に影響を受け、グイン・ハンセン・ピゴットらに続き、器で「静物画」風の空間を作り出す作家。日本でも、これまで紹介されたことがあったが、残念ながら当館では作品を所蔵しておらず、所蔵作品としても是非に加えたい作家のひとりとする。

##### ○松井紫朗 (京都芸術大学教授) 平成26年5月～10月

現代日本彫刻展等で大掛かりな作品を制作している。陶芸の森では、陶芸の森近辺の、大物ろくろ師、型屋等に技術的な協力をお願いしながら、近年手がけている、器の形状と空間の経験を結びつけ、「彫刻」とする作品の制作を試みる。具体的には、大物成形用の粘土を用い、壺形状のものと、環状の水路とを組み合わせた形状に、どちらかと言えば黒釉、青磁釉など伝統的な釉を施したものを制作する。

##### ○禹寛壕 (弘益大学校陶芸研究所所長、大韓民国) 平成26年7月～8月

近年韓国からの招聘は止まっている状態であり、韓国の現代陶芸の第2世代の中心的作家であり、また現在弘益大学校陶芸研究所所長として、韓国現代陶芸界を牽引している実績から同氏を招聘する。スタジオ・アーティストの募集や陶芸の森と韓国陶芸界との接点強化につながると考える。

##### ○町田佳子 (フランス在住・公募) 平成26年7月、10月～12月

人物やものの二面性、非対称性をテーマに男の子と女の子、おとなと子供のように対になる概念やイメージを絵と土で表現し、ドローイングとセラミックとの関係性、空間の中で二つの媒体がどのように作用していくかをさぐる。



○西田泰代&ヴァラディミア・グロー（チェコ在住・公募）平成27年3月

チェコ在住で磁器によるうつわを主に制作している。石膏型による鋳込みにより成形し、日本では、最近あまり使用することのない液体顔料や金銀彩による絵付けを得意とする。

○青木克世（東京）平成27年1月～3月

近年注目を集めている作家の一人である。元々絵を描いていたがその陶芸作品は独創的であり「装飾的であること」という工芸の考え方を独自の視点でとらえている。

#### ウ 国内外の機関との連携強化等

すでに陶芸の森と関わりのある、国内外の諸機関（IAC国際陶芸アカデミー、アトリエ・ダール等）と引き続き連携し、陶芸家の受入れをすすめることで関係の強化を図る。また、昨年度試行した「京都造形大学通信学部 陶芸スクーリング in 信楽」等の大学の学外授業を受け入れることで各大学との連携を強化する。

「京都造形芸術大学通信学部 陶芸スクーリング in 信楽」事業

<開催日>平成26年7月の週末(金・土・日)の3日間

<参加者>通信学部3年次生 25名～30名

<内容>手びねりによる、30～40cm程度の花瓶などの制作及び町内見学

### (2) 信楽産地振興

#### ア 情報閲覧室とやきもの相談員の活用

情報閲覧室の維持管理をおこない、来館する作家や産地内の作家やメーカーの方々に活用してもらおう。また、やきもの相談員制度を活用し地域に在住する信楽焼関係者から技術的なアドバイスをもらおう。

#### イ 信楽焼の担い手たちとの交流

陶芸の森の訪問者やスタジオ・アーティスト等を連れて、信楽町内に在住する陶芸家やメーカーの工房見学を積極的におこない信楽焼の担い手たちとの交流をおこなう。

#### ウ 創作研修館オープン・スタジオ、ワークショップ、講演会

地場産地対応として「創作研修館オープン・スタジオ」の日を設け、2か月に1回スタジオを公開し、滞在作家や職員によるレクチャーやワークショップをおこなって産地後継者とアーティストの交流を図っていく。

## 3. 子どもやきもの交流事業

陶芸の森の特性を活かして、やきものに関する鑑賞教育や体験教育をさまざまな形で積極的に行う。学校との連携プログラムをさらに充実させ、信楽焼をはじめとした陶芸文化の普及や、陶芸の森へのリピーターを促進し、次世代に亘る陶芸の森ファンの獲得につなげる。

また、アール・ブリュットとして評価をされている障がいをもつ人々の芸術の素晴らしさは、滋賀では陶芸作品から最初に見出されてきたことから、当館ではさらにその魅力を広く展示などで発信する機会を設けるとともに、その土の造形を造り出すきっかけを増やすという観点から、「世界にひとつの宝物づくり事業」とともに、子どもたちや障がいを持つ人の造形活動を支援していきたい。

#### (1) 「本物と出会うー総合的学習プログラム事業」宝物事業と連携

年々、本事業への参加校は増えてきており、陶芸や陶芸の森の素晴らしさを広めるために、学校への出張授業や児童・生徒が来園して作陶する来園プログラムを継続し、さらに美術館

事業として内容を吟味しながら、新規プログラムの企画を進めていく。

本事業と「世界にひとつの宝物づくり事業」をあわせた「つちっこ」プログラムが、県教育委員会の「第2期教育振興基本計画」に位置づけられたことから、まずは甲賀市内の小中学校を中心に、新規の参加校開拓に努める。また、「つちっこ」での作品を、成果展として陶芸館ギャラリーで開催し、学校からだけでなく親とともに子どもたちが陶芸の森に来館することを目指し、来園者の新規開拓、展覧会への動員につなげるものとする。

- 連携授業の新規プログラムの企画など
- 連携授業の講師養成事業
- 学校からの来園プログラム
- 陶芸館ギャラリーを活用した連携授業の成果展の開催
- ねんどと遊ぶ事業

## (2) 夏季研修会－美術館との総合的学習のあり方を探る

「世界にひとつの宝物づくり事業」と連携

<開催日>平成26年8月5日(火)

学校教育や社会教育、美術館・博物館に携わる関係者を対象に、参加者が実際に本物に触れるなど、実践をとおして陶芸や美術が子どもの健全な成長に果たすための美術館の役割を考えていく。

この研修会は、MIHO MUSEUMと連携し、陶芸の森では展覧会見学とワークショップで構成する。事業の運営は、世界にひとつの宝物づくり事業と連携をし、両者の広報活動として広げていく。

なお、この研修会に併せて「つちっこ」プログラムで制作した子どもの作品を夏休み企画としてギャラリーで展示発表する。

## 第3 産業の振興に関する事業

陶芸の森では、信楽焼の持っている伝統技術を将来に継承するという人材育成事業、およびデザイン活性化事業、さらに信楽の陶器業界が運営している信楽産業展示館での展示をもって信楽陶器産業の振興事業をおこなう。

人材育成事業として、信楽高等学校の支援を積極的におこなっていく。また、デザイン活性化事業では、陶芸館で開催する特別展「北欧スウェーデンの動物のやきものリサ・ラーソン(仮称)」にあわせてコンペティション「やきものによる動物のインテリア製品」をおこない、信楽産業展示館で展示することでデザインの啓発をおこないあわせて業界への支援とする。また、コンペの展示については、動物というテーマで陶芸館と信楽産業展示館が一体となった展示の展開を目指す。

### 1. 信楽産業展示館の活用

#### (1) 信楽産業展示館での展示

##### ア 「やきものによる動物たち」展の開催

<開催期間>平成26年6月～8月頃

コンペティション「やきものによる動物のインテリア製品」の応募の参考になるような動物のインテリア製品、作品を展示紹介しデザイン啓発の一環とする。

##### イ 「やきものによる動物のインテリア製品」入賞等作品の展示

<展示期間>平成27年3月～6月

信楽産業展示館で陶芸館企画との連携強化を目的に、コンペティション「やきものによる動物のインテリア製品」の入賞、入選作品の展示をおこなうことにより、陶芸の森として、一体感のある事業展開を図ることで、両館での集客、物販等に相乗効果を得られるようにする。

## (2) 陶器まつりでの産業展示館でのブース展示

平成25年度に試作したデザイン製品について、陶器まつりの際にブースを借り展示紹介することで地元業界へデザインの提示をおこなう。

## 2. 人材育成事業

### (1) 信楽高等学校への支援事業

信楽高等学校は、平成26年度から総合学科へ再編がおこなわれ、陶芸の森としては、従来からの共同事業をさらに強化し、下記の5項目について、各学年に応じた授業を陶芸の森でおこなう。このことで、信楽高等学校の支援を信楽高等学校地域支援協議会等の地域団体と連携しおこない、地域での人材育成に努める。

#### ア 信楽高等学校デザイン科外部研修受入れ

<実施期間>平成26年4月～5月頃

<対象>3年生30人

伝統的な陶産地である信楽焼の将来の担い手を育成するために、信楽焼伝統工芸士によるやきものへの絵付け実習を、信楽高等学校デザイン科生徒を対象におこなう。

完成した製品については、甲賀市または県の公共施設への設置をおこない、信楽高等学校の活動と信楽焼のPRにつなげる。

#### イ 野焼き体験実習【新規】

<実施期間>平成26年7月21日(月)～8月31日(日)(焼成 3時間×2日)

<対象>1年生80人

原始時代の土器などについて陶芸史の中で学んだことを実践させる。制作作業は、信楽高等学校でおこない、乾燥した縄文式土器や弥生式土器をモデルにつくられた作品を陶芸の森へ搬入後、窯の広場にて野焼きをおこなう。

#### ウ ワークショップの実施【新規】

<実施期間>平成27年3月

<対象>1年生80人

信楽在住の若手作家と陶芸の森による現代陶芸のワークショップを実施し、作家が作品をつくるまでの思考プロセスの理解を進めます。

#### エ 登り窯で焼成する伝統的なやきものの制作【新規】

<実施期間>平成26年9月～10月の間の平日

<対象>2年生30人

伝統的な信楽焼というテーマで花を生けるうつわを、伝世品やその写真を参考にしながら制作することで、信楽焼の伝統にふれるきっかけとする。

#### オ 登り窯焼成実習【新規】

<実施期間>平成26年12月9日(火)～13日(土)

<対象>2年生30人

登り窯の焼成実習および釉薬による表現の追求

### 3. デザイン活性化事業

#### (1) コンペティション「やきものによる動物のインテリア製品」の実施

＜応募期間＞平成26年5月1日（木）～12月28日（日）

＜審査＞平成27年1月初旬

＜展示期間＞平成27年3月～6月

平成26年3月から陶芸館では今人気の北欧スウェーデンの陶芸家であるリサ・ラーソンの展覧会を開催する。ラーソンは、スタイリッシュで用を第一に考える北欧デザインの品々とは異なり、1950年代中頃から「LILLA-ZOO - 小さな動物園」シリーズを制作してきた。

ここ、信楽もタヌキをはじめとする動物のインテリア、エクステリア商品を長年にわたってつくってきた経緯がある。

このコンペティション「やきものによる動物のインテリア製品」では、これからのインテリアとして生産ができるような「楽しくてモダンな」インテリアとなる動物をかたちどった商品のモデルを募集する。

#### (2) 既存製品への加飾によるデザイン提案

信楽のメーカーが製造する花器やガーデンセットなど既存製品について、各種の加飾技法により新しい要素を加え付加価値をつけ、新しい商品に再構成することで、新たな商品の開発につなげるための表面デザインの提案をおこなう。

#### (3) 海外の陶磁器デザイナーによるデザイン提案のロイヤリティーの管理

過去に、フィンランドのデザイナーにデザインを委託した商品を商品化し、生産に結び付けた。今後はロイヤリティーの管理に努める。

## 第4 企画事業

### 1. ミュージアムショップの運営

来園者に、より一層陶芸を身近に感じて頂けるようなサービスを展開する。

展覧会図録や陶芸関係書籍およびオリジナルグッズ、特別展関連商品など独自色のある商品の販売を行う。また併せてインターネットの活用したオンラインショップでの商品の提供や販売の促進に努める。

### 2. その他

#### (1) 自動販売機の設置

人々が自由に憩い楽しめるよう公園内に自動販売機を設置し、快適なサービスを提供する。

#### (2) 宿泊者用寝具の提供

創作研修館宿泊者用に寝具を提供する。

#### (3) 薪窯燃料の提供

穴窯や登り窯の使用者に対し、燃料を提供する。